

海蔵あくら



四日市市立海蔵小学校
校長室 だより
令和4年12月8日
第10号
文責 校長 柳川 洋史

SNS への書き込みの影響

12月6日、6年生と山手中1年生が交流授業を行いました。

例年「人権フォーラム」と銘打ち、身の回りの人権問題に気づき、差別や偏見を見抜く力を養う事等を狙いとして実施しています。

今年度は、文部科学省ch「情報化社会の新たな問題を考える教材」より、＜※SNS への書き込みの影響＞を視聴し、小中学生を交えたグループで意見交流を行うことがメインの活動でした。

中学生が司会進行し、小グループに分かれ、「友だちとのかかわり方」「SNS への書き込みの影響」について、話し合いが進められました。

課題の一つ、悩みがあるときにどうすればよいのか？に対し、「誰かに相談できる？」

「SNS を使うと便利だけどどんなことにつながる可能性がある？」

と、さらに深め合いました。今の時代に必要な人とのかかわり方を考える時間となりました。



参考 ※SNS とは、ソーシャルネットワーキングサービス (Social 社会的な Networking 情報交換グループの活動 Service 事業) の略で、インターネット上のコミュニティサイトのことです。ユーザーが情報発信できて、ユーザー同士でつながりを持つこともできます。プロフィールや写真の公開、メッセージの送受信、友達検索などの機能があります。個人だけではなく、企業も販売促進やマーケティングの手法として活用しています。SNS には広義においてさまざまな種類「LINE」「Facebook」「Instagram」「Twitter」等、があります。

スマホ世代の子どもとどう向き合うか

「情報化社会」と言われる現代、学校教育にも、私たちの世代にはなかった内容が求められ、教育環境整備が進められるようになりました。

タブレットの一人1台配付を起点にし、ズームやグーグルクラスルーム活用、デジタル教科書の導入、ホーム&スクールによる連絡、高校では情報科目、大学入試と、デジタル化されたものが当た

り前のように存在するようになってきました。

学習指導要領（文部科学省が告示する初等教育および中等教育における基準）にも「情報活用能力は学習の基盤となる資質能力である。教科横断的に育む。」と謳われています。

前述の＜SNS への書き込みの影響＞で触れさせていただいたように、子どもたちは、タブレットやゲーム機、スマホ等で、様々な用法を容易に得ることができる社会に育ち、未来を生きていくことになります。

SNS に関わる様々な機器は大変便利なものではありません。使い方次第で危険性（いじめ・差別）に直結することもあります。学校ではこのように人権フォーラムや道徳学習等を通じて学ぶ機会を、子どもたちに設けています。

そこで私たちは、＜スマホ世代の子どもとどう向き合うか＞を、改めて考えていかなければなりません。

「ネットは危険」「ゲームなんかやってはダメ!」、と大人はつい一方的に子どものネット利用に対して批判してしまいがちです。

しかし、なぜ危険なのか、どうしてダメなのかその理由を子どもは真に理解しているでしょうか。大切なのは「具体的な情報」を与え、子ども自身に考えさせることです。

「無料の仕組み」「ゲームの中にある仕掛け」、裏側を知ることによって子どもは自分のネット利用を客観的に考えることができます。

先日、四日市市「家庭の日」啓発事業講演会～大人の知らない子どもの世界～へ参加しました。その時の補足資料から、参考になる項目を一部抜粋して紹介させていただきます。私たち大人も、情報化社会の知識を得ていかなければならないと感じさせられました。

スマホ・ネット利用の長時間化

コロナ禍で自粛生活の影響もあり、子どものスマホ・ネット利用は長時間化している。

平日の1日あたりのインターネット利用時間平均は、小学生：約3時間20分、中学生：約4時間20分、高校生：約5時間30分にも達するという調査結果も出ている。

スマホゲーム（オンラインゲーム）の誘導

無料のゲームアプリがたくさんある。24時間いつでも遊べる。ゲーム内で友達ができる。

そのようなスマホゲーム（オンラインゲーム）には、依存性や高額課金など、様々な問題がある。

コロナ禍で、在宅時間が増えたことなどを理由に、こうした問題を抱える子どもが急増している。

「つながり」を使い分ける子どもたち

多くの子どもが、本アカ、裏アカ、趣味アカなど、目的や人間関係に応じてSNSアカウントを使い分けるため、「表」に出てこない交流がある。

「裏アカ」や「闇アカ」では、友達の悪口や学校生活への不満、家出や自殺願望などの投稿も少なくない。

あらたな「つながり」の形

子どもたちの「つながり」は、LINE や Twitter などの SNS だけではない。「ボイス SNS」や「トークアプリ」＝「声で会話して仲良くなる」アプリで見知らぬ人と仲良くなったり、ライブ配信を通して視聴者をつながり、「投げ銭」などの利益を得たりする場合もある。

いじめ被害にどう対応するか

SNS いじめに対して、「対応方法」の教育も大切。被害の画像を保存して「証拠」を残し、各種の相談窓口があることなどを子どもに知らせる。

また「加害者」になったらどうなるか、ということを考えさせ、そもそもいじめをすることが、自分の人生にも影響を与えるのだと教えていく。

スマホトラブルから子どもを守るために①

フィルタリング設定や利用ルール作りは、ネット上のリスクやスマホトラブルから子どもを守るための基本。

一方、フィルタリングも利用ルールもない家庭が、相当数に上る。

スマホトラブルから子どもを守るために②

SNS やゲームに詳しくない大人は、子どものスマホ利用問題を、つい「見て見ぬふり」「子ども任せ」にしてしまう。しかし、「スマホ弱者」の大人でも、スマホ教育は可能であり、できる範囲で情報収集したり、子どもの意見を聞いたりするなどの行動で現状を変えられる。

子どもと作る「心のコミュニケーション」

一律のルールを課したり、大人の一方的な意見を押し付けたりするのではなく、子ども自身が「考えるための材料」を与えることが大切。

また、子どもに「〇〇してくれるとうれしい」「□□されたら悲しい」など、大人の気持ちを表現して互いの心を通じ合わせるよう努めることも大切。

「可能性」を広げるスマホ利用

無料のオンライン学習塾を利用すれば、中学 3 年間分の勉強が自宅でできる。

アプリ開発用の無料ソフトや、外国語を習得できるサイトなど、スマホやタブレットには、将来の可能性を広げる使い方があることも伝えていくことも大切。

海蔵小学校でも、SNS に関わる相談を受けるときがあります。

利便性と危険性が伴うことを、段階的に授業等で扱っていきますが、ご家庭でも使用時のルール確認をお子様と一緒に進め、適宜確認等していただくことをお勧めします。今後も、ご家庭と学校と協力し合いながら、子どもたちの情報活用能力を高めていきましょう。